タッチ・デバイスを用いた自動車運転サポートシステムに関する研究

ソフトウェア開発管理　矢吹研究室　0942013　伊藤　貴文

1．研究の背景，（←ここに句点は不要）

自動車体験を向上させる情報技術は大きく2つに分けられる．（以下，段落の最初をすべて字下げ）

第一に運転支援技術である．これはいくつか種類がある．車載型運転支援技術はACCというもので前方を走行する車両との車間距離を一定に保ち，必要に応じてドライバーへの警告を行う技術である．衝突被害軽減ブレーキは前方の障害物等を検知し，運転者へ警告する．衝突が避けられない場合にはブレーキの補助操作を行う技術である．レーンキープアシストは道路の白線等の走行環境を検知し，車両が走行車線を維持するよう，ハンドル操作を支援する技術で，日産のインテリジェントクルーズコントロールやスバルのアイサイトやトヨタのレーンキーピングアシストとして実現されている．

第二にコミュニケーション技術である．これは運転者が運転中に情報を取得したり発信したりするのをサポートする技術で，例としてカーナビゲーションシステムやハンズフリー通話技術などがある．

これらの2つの技術の発展はめざましいものがある．例えばコミュニケーション技術においては，複数の自動車の運転中の急停止のデータを，それが発生した位置情報とともに収集することによって，道路や標識などの異常を発見できるようになっている．またクルマとクルマ、あるいはクルマと歩行者が直接通信し、連続的に情報交換をすることによって、今まで対応が難しかった見通しの悪い交差点での事故や、交差点での右折時に陰に隠れたクルマと衝突する事故などの防止する（主語・述語）．このような技術は有用ではあるが，導入するためには，その技術を採用しているメーカーの新車を購入するしかないという欠点があった．

2．目的，

新車を購入しなくても実現できるような，運転中のコミュニケーションをサポートする技術を開発する．

3．研究方法，（箇条書きの前に一文必要）

・スマートデバイスを利用する．

* GPSや加速度などのセンサーがある．
* 通信ができる．

・SNSと連携する

* クラウドの活用（データをSNSに蓄積する）

4．成果物のイメージ，

既存の自動車でも利用可能な運転サポートシステム（をどうするの？）．SNSサイトと連動してスマートデバイスを通じてリアルタイムの交通状況，事故や渋滞や（改行不要）

取締の情報を受信・発信できるようなアプリケーションを作れるようにしたい．

5．進捗状況，

既存の自動車にも運転中のコミュニケーションをサポートするシステムを考案した．例えばスマートデバイスを車に設置し，今自車がいる位置にGPSを使いリアルタイムに地図表示を行う．それと同時にSNSのTwitterに連携し自車の半径10キロ程度の事故や渋滞や取締の交通情報を地図上に表示させる．また逆に自ら交通情報を投稿し情報を共有する．投稿する際は，デバイスに搭載された各種センサからの入力データを活用する．

6．今後の計画，

　　　運転支援システムの調査をする．アプリケーション開発に必要な知識も調べる．特にOBDⅡケーブルを用いたスマートフォンアプリの利用とスマートフォンと連携する「ディスプレイオーディオ (DA)」について詳しく調べていきたい．目的を実現するシステムのプロトタイプを作成し，動作を検証する．

参考文献（番号をつけて，本文で関連づける）

トヨタ・レーンキーピングアシスト

[http://www.toyota.co.jp/jpn/tech/safety/technology/technology\_file/active/lka.html]

日産・インテリジェントクルーズコントロール

[http://www.nissan-global.com/JP/TECHNOLOGY/OVERVIEW/icc.html]

スバル・アイサイト

[http://www.subaru.jp/eyesight/digest/]

インフラ協調運転支援システム

[http://www.toyota.co.jp/jpn/tech/its/infrastructure/]

日本初、車内WiFi搭載の新型アウディ

[http://gqjapan.jp/2013/09/04/audi-a3/]

翔泳社　位置情報の基本と技術　谷口功